様式８

# 河川基金助成事業

# 筑後川をまるごと学び
# 次世代へ伝える活動

# 報告書

助成番号：　2019－6112－023

筑後川まるごと博物館運営委員会
館長　浅見　良露

令和元年度

## １．事業概要

### 1.1 目的

筑後川は特色ある自然・景観に恵まれ深い歴史と独特の文化を持つ地域である。しかし流域人々の筑後川への関心は薄く、川や水辺など地域の環境の課題を抱えている。この流域の「ありのままの姿」を住民が学んで知る場を創り、子ども達から高齢者まで、川の環境改善と地域の活性化へ向けて実際の活動を行う人々の育成へとつなげていくことを目的とする。

### 1.2 概要

①筑後川流域講座

流域で活動する人々を講師に学生、一般向けの公開講座を行う。年間 24 回、延べ 1,656 人参加。

②筑後川流域現地学習

流域の地域資源を活用し川の魅力を再発見するツアーを行う。年間 3 回、延べ 53 人参加。

③子どもたちの環境体験学習

川での自然体験学習や、生き物などの環境学習活動を行う。また、プロジェクトＷＥＴを活用して水について楽しく学ぶ体験学習を行う。年間９つのプログラム、延べ 19 日、延べ 319 人が参加した。

### 1.3 活動の経緯

筑後川流域講座は 2001 年に流域の人材育成を目標に、流域住民や学生を対象に毎週月曜日に久留米大学で始まり今年度で 19 年目となる。講座の第 1 期生 20 人が中心となって、2003 年に筑後川まるごと博物館運営委員会が正式に設立された。

2003 年 6 月に「筑後川発見館くるめウス」がオープンし、ここを拠点に筑後川まるごと博物館は活動することになった。2004 年より一般市民や子どもたち向けのさまざまな体験イベントや講座や展示活動を行い、2011 年よりは「くるめウス」において自然を守るリーダーを育成する目的で「子ども学芸員養成講座」を行なっている。

また 2017 年からは、プロジェクトＷＥＴを活用した子ども向け環境学習の体験の活動も行なっている。

## ２．事業・活動の内容

### 2.1 筑後川流域講座の推進

［講座テーマ］　筑後川流域には、個性豊かな地域にいろいろな人々が活躍している。当年度で 19 年目となるこの公開講座は「筑後川流域の環境と歴史・文化のつながり」をテーマに、流域の問題、課題やそのための対策などについて、現場で活動している方々に講義をお願いし行っている。この講座は、「筑後川流域の風土と社会」を中心テーマとして、地域の現場を見学する現地学習も並行して行って、受講生が筑後川を身近に感じる事を目的として実施している。

［期間］　2019 年 4 月 15 日～7 月 29 日（前期 12 回）月曜日 16：40～18：10

2019 年 9 月 23 日～2020 年 1 月 6 日(後期 12 回)月曜日 16：40～18：10

［内容］　筑後川流域で活動する人々が各回の講師となって実施した。また一部はプロジェクト WET も活用して行った。

［結果］　期間中に延べ 24 回の講義を実施し、述べ 1,656 人が受講した。

### 2.2　筑後川流域現地学習

流域の人々の協力のもと、地元の魅力を伝えるコースを設定し流域現地学習を実施した。現地の案内は地元を知り尽くした人にお願いし、全体の案内は当博物館の学芸員(案内人)が行った。

［内容］5/19 上流現地学習「清流の森と九重高原　八丁原地熱発電所を巡る」実施
6/30 中流現地学習「平塚川添遺跡と江戸期の井堰と H29 豪雨水害跡を巡る」大雨のため中止
10/19 上流現地学習「小鹿田焼の里、水郷日田と大山の風土を巡る」実施
12/15 中流現地学習「朝倉の歴史遺産と平成29年豪雨水害跡を巡る」実施
［結果］年間に 3 回実施し、延べ 53 人が参加した。1 回中止した。

2.3 **子どもたちの環境体験学習**

主に小学生を中心に、地域や川への関心を深め、流域の環境について考えるきっかけとなることを目指して環境や自然などを学ぶ教室や、プロジェクトＷＥＴを活用して水を楽しく学ぶ体験学習を行った。この活動は当会の学芸員や流域の団体の連携協力により行った。

［会場］　筑後川防災施設くるめウス及びその周辺の水辺環境
［内容］　①5/12、6/9（2回連続講座）「昆虫標本づくり講座」
②5/26 子どもプロジェクトＷＥＴ体験-1「体験ゲームでわかる水のふしぎ」
③6/2　環境フェアで子どもプロジェクトＷＥＴ体験-2「体験ゲームでわかる水のふしぎ」
④7/15, 7/24, 7/28（3回連続教室）夏の自然体験教室「こ～ら川子ども探検隊」
⑤8/3, 8/18, 8/25（3回連続教室）子どもプロジェクトＷＥＴ体験-3, 4, 5「子ども水の学芸員養成講座」
⑥10/26 子どもプロジェクトＷＥＴ体験-6「体験ゲームでわかる水のふしぎ」
⑦11/16　子どもプロジェクトＷＥＴ体験-7「体験ゲームでわかる水のふしぎ」
⑧2020年2/22 子どもプロジェクトＷＥＴ体験-8「体験ゲームでわかる水のふしぎ」
⑨7/14、8/4、9/1、10/13、11/4、12/1、(6回連続講座)「ちくご川子ども学芸員養成講座」
［結果］年間９つのプログラムを行い、延べ19日実施し約319人が参加した。
「ちくご川子ども学芸員養成講座」の過去 9 年間の成果として「みんなでつくる高良川昆虫図鑑」を子どもたちの協力のもとに作成した。

## ３．事業・活動の効果等

今年度の一連の活動で、子どもたちから高齢者まで幅広く多世代の人々に、筑後川流域の自然や環境、流域の歴史文化などのありのままの姿と、課題や魅力を伝えつつ、川への関心を高めることができた。

3.1 **筑後川流域講座**は、19 年目を迎え筑後川の現状や課題などを学ぶ講座として定着してきており、一般市民及び学生を含めて延べ 1,656 人が受講した。流域の自然, 歴史, 文化, エネルギー, 防災などについて流域で実際に活動研究する講師の話を聞き、新しい知識を得て自らの学びを深めた。また、前期と後期に各１回、体験実習として行ったプロジェクトＷＥＴを使った協同学習にも参加し、将来の指導者へ向けての知識と経験を積んだ。以下に 2 回の協同学習の結果をまとめる。

(1)5 月 13 日前期第 3 講「水防災協同学習」

流域講座の初めての試みとして、プロジェクトＷＥＴのアクティビティ「洪水の歴史」をベースに 90 分のグループ学習を行なった。学生と一般人計 36 人の受講者を 6 つのテーブルに分け「平成 30 年 7 月西日本豪雨による久留米水害」をテーマとして実施した。この授業の目的は、近年頻発する豪雨災害を身近に感じ、普段の災害への心構えを持ってもらおうというもの。この授業では、ファシリテーターが昨年の水害の新聞記事や動画、ハザードマップなどの資料を情報提供し、各グループ毎にそれを読み込んで「資料で気になったこと」「災害への対応で大事と思うこと」「ハザードマップの活かし方」の３点ついて各自の意見を出しあった。それをグループの意見にまとめて共有し　最後にみんなの前で発表した。参加者の中には、この災害を実際に体験した人もおり「リスクを常に考えて行動する」「自分の住む地域の地形などを把握しておく」「ハザードマップを常に身近において意識しておく」「地域の人たちとの普段の関係づくりが大事」など現実に即した意見が出ました。講師が教壇から一方的に教えるいつもの授業のやり方より、みんなで考える協同学習方式

は、参加者に当初の目的をより強く意識づけたようである。

(2)10 月 28 日前期第 6 講「水環境協同学習」

前期に続いて、プロジェクトＷＥＴを活用して協同学習を行なった。ＷＥＴのアクティビティ「塵も積もれば」を応用して 90 分のグループ学習とした。学生と一般人計 32 人の受講者を 5 つのテーブルに分け「筑後川から有明海へ！川と海の水環境・汚染を考える」をテーマとして実施した。

私たちの身近なゴミ問題は、大切な水の供給源である川の汚染から、世界的な海洋のプラスチック汚染にまでつながっており、それは人の健康や全地球的な問題となる環境変化、気候変動にも大いにかかわってきている。この協同学習ではグループに分かれて、みんなでこのことを考えて、私たちが身近かで今できること、考えるべきことなどを話し合い、みんなで共有した。

この授業では、ファシリテーターが事前に参加者に対して、環境問題の Web サイトを指定して予習してくるように要請した。当日の学習では、地域のゴミや環境汚染に関する動画やスライドを映写して、各テーブルには関連の新聞記事や久留米市環境部のリーフレットやプラスチック海洋汚染に関する資料を情報提供した。各グループ毎に、まず川沿いに自分たちが思う街の絵を自由に描いて、「その町ではどんな環境汚染が考えられるか？」「それに対して対策できること、できないことは何か？」「自分たちが今できることは何か？」の３点ついて各自の意見を出しあった。それをグループの意見にまとめて共有し、最後にみんなの前で発表した。参加者の意見としては「自分のゴミの量を減らす」「マイバッグ、マイボトルを持つ」「レジ袋の有料化、リサイクルの推進」などが挙げられた。また感想としては「マイクロプラスティック問題をもっと知りたいと思った」「水環境の汚染問題に理解と意識が甘かった」「何気ないポイ捨てが環境に大きな影響を与えかねないことが分かった」「グループ内で同じテーマに沿って話し合うのが新鮮だった」などがあった。このようにみんなで考える協同学習は、参加者に環境問題への意識をより強く持たせたようである。

3.2 **筑後川流域現地学習**は、流域の現状を現地見学しながら体験できると、市民や学生に好評で今年度は延べ 53 人が参加した。流域の上・中流域を訪問し現地学習に参加した学生や一般市民たちは、現地においてそこで活動する人々の話を聞き、実際に目にすることで、流域の実情や課題を知ることができた。今後、彼らが流域で活動し、指導し、また人を案内する立場になった時に役立つ経験と知識を学んだ。

3.3 **子どもたちの環境体験学習**は、１年を通して小学生を中心に延べ 319 人が参加した。子ども達が水辺の自然環境の中で、多くの生き物と触れ合うことで、河川の環境を守ることの大切さを実感し、自らテーマを見つけて調査、研究し発表できる力がついてきた。また、プロジェクトＷＥＴの体験学習に参加することで、水の不思議な性質や水の大切さなどの理解が親子で深まった。

**「ちくご川子ども学芸員養成講座」**は、子どもたちの“得意分野をグーンと伸ばそう”を目標として始めて９年目となる。くるめウス周辺で７月から毎月行ない、最終回の 12 月１日に今年の活動を終えた。各回 20 人から最大 24 人の参加があり子供たちは多くの体験をした。この活動では、年間６回の連続講座で昆虫の専門家が子どもたちに密着指導して、５回のフィールドワークで各自の調査研究を行い、最終回に、各自のまとめ作品作りを行って、保護者など約 50 人の前で元気に発表した。今年は３年生以下の低学年の子が半数あり、それぞれ好きな昆虫の発表をした。また高学年の子も、自分の得意分野を掘り下げた研究成果を発表して会場を感動させた。子ども学芸員を卒業した２人の高校生は自分の研究をしながら小学生のよき相談相手となり、みんなの目標となっている。発表を行った小学生 20 人に「子ども学芸員」認定書を授与した。これで第１期生から数えて通算 93 人となった。子どもたちは毎月参加することで興味がどんどん深くなっていく。毎年参加して発表すると度胸がついて自信が深まっていくようだ。彼らの今後に期待する。「ちくご川子ども学芸員養成講座」の活動は、平成 30 年度生物多様性アクション大賞審査委員賞を受賞した。さらに、日本自然保護大賞には平成 29 年度に続き連続入選を果たした。さらに今年度は活動場所(筑後川と高良川合流点)でとれた昆虫 239 種を掲載した「みんなでつくる高良川昆虫図鑑」を作成した。これは過去９年間の子ども学芸員の成果として、子ども学芸員 OB が作成しデータ化したものを、みんなの協力のもとまとめたものである。今後の活動に大いに生かして行きたい。

**子どもたち向けのプロジェクトＷＥＴ体験「水のふしぎ」**は、今年度まで６回のプロジェクトＷＥＴエデュケーター講習会を行い 101 人のエデュケーターが誕生したことを受けて、彼らのＷＥＴプログラムの研究と実践の場を兼ねて、くるめウスに来館した子供たちを対象に行った。身近な水につい

て体験活動を通して理解を深めることを目的に、今年度８回行ない学生も含めて延べ 132 人が参加した。活動終了後、必ず振り返りの会で改善点を話し合うことを重ねたので、次第にアクティビティが進化して身についてくることが実感された。

各回のプロジェクトＷＥＴ体験「水のふしぎ」の報告を以下にまとめる。

（1）5 月 26 日「体験ゲームでわかる、水のふしぎ」子どもプロジェクト WET　実施報告 1

くるめウスにおいて､久留米大学での公開講座･筑後川流域講座の授業を兼ねた学生 14 人および、一般募集で集まった小学生５人と保護者など計 22 人が参加し「水のふしぎ」を共に学んだ。

第 12 回プロジェクトＷＥＴ自主研究会として集まったファシリテーター３人が指導した｡「水リンピック、侵入者、ブルービーズ、塵も積もれば」の４つのアクティビティを行なった。「水リンピック」はクリップを浮かべる競争に子どもも学生も大いに盛り上がった。「侵入者!」は子どもたちに人気の椅子取りゲーム形式で在来生物の絶滅の危機を体感しながら楽しんで学び、「ブルービーズ」では「水の速さに自分の動きがついて行けず、川の流れが季節で大きく違うことがわかりとても楽しかった」という声が、また「塵も積もれば」では「自分たちが知らず知らずのうちに川を汚しているのがよくわかった」との声があった。「楽しく活動しながら川への興味がわいてきた」などの感想が参加者から寄せられた。

（2）6 月 2 日環境フェア「体験ゲームでわかる、水のふしぎ」子どもプロジェクト WET　実施報告 2

久留米百年公園で行われた「くるめ環境フェア」において、当委員会では毎年紙芝居を行なっており、今年はテントを拡大してプロジェクトＷＥＴの紹介と体験も併せて実施した。この日はファシリテーター５人が第 13 回プロジェクトＷＥＴ自主研究会を兼ねて体験会を行ない、延べ 53 人の子どもたちが楽しんで参加した。狭いテント内でもできるように道具類を小さくするなど工夫して「水リンピック、ハンプティダンプティ、驚異の旅」の３つを行なった。参加した子どもたちからは「水ってふしぎだな。水のことが少しわかっていい体験でした。」などの感想があった。屋外テントでの活動は初めてで手さぐりだったが、室内とは違うやり方が必要だと実感した。

（3）8 月３日「子ども水の学芸員養成講座１回目」子どもプロジェクト WET 体験　実施報告 3

今年度初の試みとして、夏休みの子どもたち向けに、水に関する夏休みの自由研究作成をサポートする連続講座を行なった。3 回の活動に参加して自分で気づき調べた結果を、最終日に自分の作品にまとめて発表すれば「子ども水の学芸員」に認定するというもの。「水の大切さ」「水の特性」「自然環境を守る必要性」などをわかりやすく学び、この活動の中で、探究心、まとめる力、発表力を育てることを目標に行った。第１回のテーマは「水の大切さ、川の流れと汚染」として、3 つのアクティビティ(青い惑星、ブルービーズ、塵も積もれば)を行なった。プロジェクト WET のファシリテーター4 人が講師となり、事前公募で集まった親子 11 人とともに、クイズを交えて体を動かす体験活動を２時間楽しく学んだ。

（4）8 月１８日「子ども水の学芸員養成講座 2 回目」子どもプロジェクト WET 体験　実施報告 4

第 2 回のテーマは「自然環境・生態系の変化と再生」として、3 つのアクティビティ(ハンプティダンプティ、侵入者、水リンピック)を行なった。プロジェクト WET のファシリテーター4 人の指導で、親子 12 人が楽しく２時間の体験活動を行なった。次週の最終回の自由作品作りと発表会へ向けて､参考となりうる水や川に関する絵本や子ども向け解説図書をあらかじめ購入して紹介した。

（5）8 月２５日「子ども水の学芸員養成講座 3 回目」子どもプロジェクト WET 体験　実施報告 5

第 3 回 は 4 人のファシリテーターの指導のもと、親子 12 人が講座最終回の 3 時間の活動を行なった。3 回目のテーマは「水の特性と水循環」として、2 つのアクティビティ(動いている分子、驚異の旅)を行なったあと、前２回の活動を振り返って、水に関して各自が調べたことや、みんなに伝えたいことについて、まとめの作品作りを行なった。

　できた作品は、川をきれいに！という啓発ポスターが１点、流域の水害や世界の水道、水の大切さについて調べた壁新聞が３点、また、川の汚染防止に私ができる事について書いた作文と絵が１点の計５点で、それぞれ子どもたちが自分の思いを元気に発表した。参加者の感想としては「水がどれほど尊いかよくわかった。今度は家の水がどこから来ているか調べてみたい」「水が形を変えていろんなところにあり、旅していることを改めて知った」「子どもが水について好奇心を持って取り組み楽しんで活動していた」「水について知らないことがたくさんあった」「親子で体験できて良かった」「楽しく学べて友達ができた」「体験活動が工夫されていて楽しくわかりやすかった」などがあり、親子で楽しく学んでいただいた。

（6）10 月２６日　子ども版プロジェクト WET「体験ゲームでわかる、水のふしぎ」実施報告６

久留米周辺の５人のファシリテーターが参加して、17 回目となるプロジェクト WET 自主研究会を開催した。同時に事前募集して集った親子 13 人と学生９人が参加して、プロジェクト WET 体験会 “水のふしぎ”を実施した。子ども向けに改良した「青い惑星」「ハンプティダンプティ」「侵

入者」「塵も積もれば」の４つのプログラムを行なった。参加者からは「ゲームをやりながら実際に体験することでより理解が深まった。」などの感想があった。

（7）11 月１６日　子ども版プロジェクト WET「体験ゲームでわかる、水のふしぎ」実施報告７
ファシリテーターら５人が、くるめウスに集い 18 回目となる自主研究会を行い、子ども向けプログラム実施へ向けて改善策を話し合った。実施の際は、子どもたちに「水の大切さ」や「水の性質」等を知ってもらう、という目的に沿って活動することを皆で確認した。 その後事前募集して集った親子５人と久留米大学生 14 人に対してプロジェクト WET の体験活動を行なった。今回は「青い惑星」「水リンピック」「驚異の旅」「ブルービーズ」の４つのプログラムを実施した。「驚異の旅」は、参加者が水の分子となって、サイコロを振って水の循環を自ら体験する人気のアクティビティである。。学生や子ども達は楽しく学んでいた。参加者の感想として「子ども達と楽しく活動できた」「水の循環がよく分かった」「水の大切さが体験できた」などがあった。

（8）2020 年 2 月 22 日　子ども版プロジェクト WET「体験ゲームでわかる、水のふしぎ」実施報告８
くるめウスにおいて親子 15 人が参加して、身近な水や環境を守る大切さなどについて、ファシリテーター４人の指導で体験ゲームを行ないながら楽しく学習した。この日は４つのアクティビティ「青い惑星、水リンピック、動いている分子、驚異の旅」を行い、「青い惑星」では水の大切さについて、「水リンピック」では水の性質と環境問題、「動いている分子」では水の三態について、「驚異の旅」では水の循環について楽しく学んだ。 参加者の感想として「水がいろんな形に姿を変えることがわかった」などがあった。

これらの活動を幅広く行い、人々が川や流域のありのままの姿を知り、河川環境の改善や地域の活性化へ向けて具体的な次への行動へつなげることが期待できる。そのためには、子ども達から高齢者まで、多様な人々の関心を高め、また彼らが興味を持ち、楽しめることを常時行っていくことが必要である。さらには流域各地の地域資源を掘り起こし、人々がまず地域を知る場を創っていくことが必要である。この活動を継続し地域の未来を担う子どもたちを育て、川づくり地域づくりで活動する人材を増やし、地域の将来につなげたい。

筑後川流域講座　活動写真　2019 年 4 月～2020 年 1 月

＜前期＞

4 月 15 日「筑後川の概要とまるごと博物館」

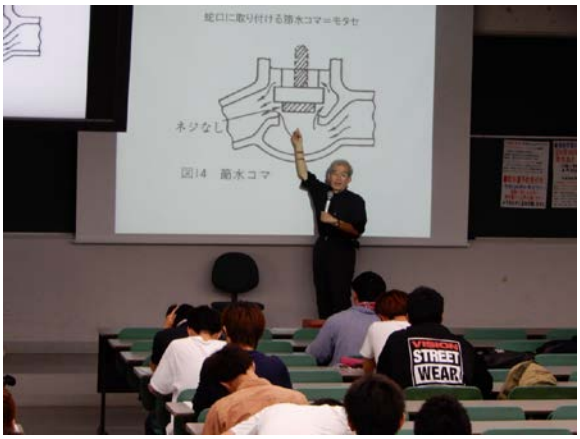
4 月 22 日「上流域の自然エネルギーの現状」

5 月 13 日水防災協同学習

「平成 30 年 7 月西日本豪雨における久留米水害を考える」

5 月 20 日「筑後川流域の治水の歴史と現在」

5 月 27 日「平成 29 年 7 月朝倉水害のその後」




6 月 3 日

「ナウシカから柳川掘割物語と水環境再生へ」

6 月 10 日

「有明海と下流域の生き物と自然の変化」

6 月 24 日「治水の神様、成富兵庫茂安」

7 月 1 日「有明海は今」

7 月 8 日　「水循環基本法と流域の連携」

7 月 22 日「流域博物館の戦略的活用」

7 月 29 日前期最終講「復習テスト（まとめ)」

＜後期＞

9 月 23 日「筑後川の概要とまるごと博物館」

9 月 30 日「筑後川におけるダム開発史」

10 月 14 日「豪雨災害による森林の崩壊と林業」

10 月 21 日「環境省施策「地域循環共生圏構想」と筑後川中流域での取組」

10 月 28 日　水環境協同学習
「筑後川流域の水環境を考える」

11 月 11 日
「ヒナモロコと共存できる農村環境の歴史」

11 月 18 日「筑後川の水制御の伝統技術に学ぶ」

12 月 2 日

「筑後川流域の歴史と神社と祭りの関わり」

12 月 9 日「下流大川の近代化遺産」

12 月 16 日

「筑後川下流域、佐賀藩の治水・利水」

12 月 23 日「筑後川流域圏の経済地図」

2020 年 1 月 6 日後期最終講「復習テスト」

筑後川流域現地学習　活動写真　2019 年 5 月～12 月

5 月 19 日上流現地学習ツアー
「清流の森と九重高原　八丁原地熱発電所を巡る」

10 月 19 日上流現地学習ツアー
「小鹿田焼の里、水郷日田と大山の風土を巡る」

12 月 15 日中流現地学習ツアー
「朝倉の歴史遺産と平成 29 年豪雨水害跡を巡る」

6 月 30 日は中流現地学習ツアーを予定したが、大雨のため中止した。

子どもたちの体験活動写真　2019 年 4 月～2020 年 2 月　　No. 1

5月12日
「昆虫標本づくり講座」１回目

6月9日
「昆虫標本づくり講座」２回目

5月26日　子どもプロジェクトＷＥＴ体験-1
「体験ゲームでわかる水のふしぎ」

6月2日　子どもプロジェクトＷＥＴ体験-2
環境フェアで「体験ゲームでわかる水のふしぎ」

7月15日「こ～ら川子ども探検隊（下流）」
１回目　川に入って自然観察

7月24日「こ～ら川子ども探検隊（中流）」
2回目　天然記念物ヒナモロコの学習(雨のため)

子どもたちの体験活動写真　No. 2

7月28日「こ～ら川子ども探検隊
3回目（まとめと発表）」

↑8月3日
1回目

8月18日
2回目↓

8月3,18日子どもプロジェクトＷＥＴ体験-3,4
「子ども水の学芸員養成講座１，２回目」

8月25日子どもプロジェクトＷＥＴ体験-5
「子ども水の学芸員養成講座３回目（まとめと発表）」

10月26日子どもプロジェクトＷＥＴ体験-6
「体験ゲームでわかる水のふしぎ」

11月16日子どもプロジェクトＷＥＴ体験-7
「体験ゲームでわかる水のふしぎ」

2020年2月22日子どもプロジェクトＷＥＴ体験-8
「体験ゲームでわかる水のふしぎ」

子どもたちの体験活動写真　No. 3

●「ちくご川子ども学芸員養成講座」６回連続講座

7月14日子ども学芸員養成講座 第１回

8月4日子ども学芸員養成講座 第2回

9月1日子ども学芸員養成講座 第3回

10月13日子ども学芸員養成講座 第4回

11月4日子ども学芸員養成講座 第5回

12月1日子ども学芸員養成講座 第6回

今迄の研究成果をまとめ、皆の前で発表した20人に、子ども学芸員認定書を授与した

## 子どもたちの体験活動写真　No.4

「ちくご川子ども学芸員養成講座」以下４枚は活動中の参考写真

子ども学芸員養成講座　１１月４日
フィールドワーク、みんなで昆虫採集

子ども学芸員養成講座　１０月１３日
みんなで図鑑で調べる

子ども学芸員養成講座、最終回　１２月１日
発表へ向けて自分の作品作り

子ども学芸員養成講座、最終回　１２月１日
みんなの前で発表する

「みんなでつくる高良川昆虫図鑑」以下２枚はその成果品(全 28 ページ)

表紙

裏表紙

中面

様式 １１

３．川づくり団体部門

［実施箇所位置図］

| 助成番号 | 助成事業名 | 所属・助成事業者氏名 |
|---|---|---|
| 2019-6112-023 | 筑後川をまるごと学び<br>次世代へ伝える活動 | 筑後川まるごと博物館<br>運営委員会　　浅見　良露 |

| | |
|---|---|
| 主な実施箇所 | 筑後川水系筑後川、高良川(福岡県久留米市)、筑後川防災施設くるめウス・久留米大学 |

河川基金ロゴ等表示状況写真

| 遠景 | 近景 |
|---|---|
| | |

| 延べ参加人数 | 一　　般 | 延べ 1,975 名 | スタッフ・事務局 | 延べ 111 名 |
|---|---|---|---|---|
| マスコミ等の反響 | | | | |